



認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たらちね」の活動から 2回連載(前編)

## 子どもの健康と未来を守る。



鈴木 薫(すずき かおり)さん

福島県いわき市小名浜出身。福島第一原発事故後、いわき市在住の母親たちと「いわきアクション!ママの会」を設立。2011年11月に「いわき放射能市民測定室たらちね」の事務局長に就任。

2011年3月の福島第一原子力発電所の事故後、母親たちが安全な食材を求めて放射能測定を始めたことから、認定NPO法人「いわき放射能市民測定室たらちね」(以下、たらちね)の活動が始まりました。自分たちで行動を起こしながら活動を広げてきた10年。今、どんな課題を感じているのか、事務局長の鈴木薫さんにお聞きしました。

### 放射能測定から原発作業員の検診まで

「原発事故当時、お母さんたちが『何の食材で晩ごはんを作ったらいいのかわからない』ということから活動がスタートしました。行動するなかで、これもやらなきゃと見えてきたことをひとつずつ事業にしてきたのです」。たらちねの鈴木薫さんは、この10年をそう振り返ります。

現在では放射能測定からクリニック、甲状腺検診プロジェクト、保養サポート、心のケアまで、その活動は多岐にわたります。パルシステム東京が行う甲状腺検診も、たらちねの協力のもと続いているものです。また、クリニックにホールボディカウンター(体内の放射性物質を測定できる装置)があるため、原発作業員の内部被ばく測定を事業体単位で受けてきましたが、さらに今年度からは原発作業員や除染作業員の健康診断にも力を入れていく予定です。

「そもそも作業員の方たちは一般の健康診断を受けたことがない人も多く、健康が大事にされていない状況があります。この先も原発作業が続くことを考えると、今、作業員の健康が守られる環境をつくるのが、将来作業にかかわるかもしれない子どもたちの健康を守ることににつながるはずです」と鈴木さん。

被ばくの観点から子どもの健康を総合診断する「こどもドック」を行ってききましたが、その診断記録を残す手帳を作ることも考えています。

※パルシステム東京は2014~2018年度まで独自の「福島支援カンパ」でたらちねを支援。2019年度にはパルシステムグループ全体で取り組む「応援金」を配分して、たらちねの活動をあと押ししています。

### コロナ禍で受診が増えた甲状腺検査

コロナ感染拡大による影響を受けた昨年度は、クリニックの来院者が減ったり、保養が中止になったりした一方で、県による学校での甲状腺検査が見合わせになったことで、たらちねの検診に来る人は増えたといいます。

「パルシステムからの応援金でサポートしてもらっている甲状腺検診プロジェクトは、変わらず続けていくつもりです。事故当時、小さかった子どもが成長して親に言わずに検査を受けに来ることもあります。もう県の甲状腺検査は受けさせていないという親ごさんもいますが、子どもの心配は親と同じではないこともあるのです」

今、鈴木さんが懸念しているのは、沿岸部での産業創出をめざす「福島イノベーション・コースト構想」による教育への影響だといいます。構想によって双葉郡の小中学校では「ふるさと創生学」という、ふるさとへの誇りや愛着を育む授業が始まりました。「子どもは真面目ですから、福島の事故は福島に住む自分たちで将来何とかしなくては……と背負ってしまわないか心配になります。こうした子どものようなすなども、これからたらちねで見守っていく必要があると思います。心のケアについては、大人も子どもも、まだまだ必要な状況です。10年かけて広げてきた活動を、さらに掘り下げていく時期に来ていると思います」

※心のケアについては次回の6月5回でご紹介します。

### 「たらちね」開設から現在までの歩み

2011年11月	「たらちね」開所
2013年3月	甲状腺検診プロジェクト開始
2015年4月	ストロンチウム90とトリチウムの測定開始
2015年9月	福島原発沖での海洋調査開始
2017年6月	たらちねクリニック開設
2018年1月	子どもの遊びやマッサージの施設を開設
2019年8月	ゲルマニウム半導体検出器を購入
2020年5月	トリチウム測定設備の導入準備を開始



写真左)「たらちね」が続けている子どもの甲状腺検診。出張検診も行っています 写真右)ストロンチウム90とトリチウムの測定を行うようす(写真提供/いわき放射能市民測定室たらちね)

## 放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数)/2021年3月31日現在 ※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計:2138(31) 不検出率:98.6%

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	422(3)	れんこん(3.5~7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	37(26)	生しいたけ(5.0~15Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	42(0)	2019年度に続き、3月31日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	30(1)	2020年産米の検査は27産地29検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	82(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、3月31日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	107(0)	2019年度に続き、3月31日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	58(0)	2019年度に続き、3月31日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	244(0)	2019年度に続き、3月31日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	1116(1)	ほしいも(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



●週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。  
●インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき  
パルシステム 問合せセンター **0120-868-014** 月~金曜日:9時~20時 土曜日:9時~17時  
※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨 甲斐センター ■0120-28-5891 高崎センター ■0120-60-5118 西桂センター ■0120-32-1061 渋川センター ■0120-36-3315 一宮センター ■0120-21-9898 東毛センター ■0120-63-3735  
※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。